

日本行動計量学会・多摩大学共催シンポジウム 「今こそ、調査の哲学を」

松本 正生（埼玉大学）

- 〔報告者〕 世論調査の現状と課題：松田 映二（朝日新聞社）
社会調査の現状と課題：吉野 諒三（統計数理研究所）
市場調査の現状と課題：萩原 雅之（ネットレイティングス）
アメリカの調査事情：相田 真彦（ミシガン大学 I S R）
- 〔討論者〕 平野 浩（学習院大学）
山岡 和枝（国立保健医療科学院）
- 〔司 会〕 松本 正生（埼玉大学）
- 〔日 時〕 2004年 5 月22日（土）13:00～17:00
- 〔場 所〕 多摩大学ルネッサンスセンター（品川インターシティ内）
- 〔参加者数〕 120名

「世論」、「社会」、「市場」など、調査にかかわる当事者たちが、調査の現状と課題を報告し議論する。たとえば言えば異業種間交流、これがシンポジウムのねらいのひとつだった。先ずは、各報告者に「調査とは何か。調査の定義、そして目的は何か」を語ってもらった。「調査」の定義は、その枕（まくら）、つまり、「…調査」の「…」次第で大きく異なる。世論調査の松田氏にとって、調査とは「確率的に再現可能なもの」すなわち「科学的な世論調査」を指す。また、目的は「有権者の声をすくいあげて、記録する」ことにある。社会調査の吉野氏も、「精度が計算

可能」な「科学的調査」を前提とする。世論や社会を推定するに足るだけの客観性が調査の第一条件という認識だ。

対照的に、市場調査の萩原氏にすれば、「すべての市場調査は投資である」がゆえに「ゆがみのない正確さよりも現実的な情報の価値が優先する」。調査とは、企業（依頼主）に利益をもたらすものでなければ意味がない。

さらに、RDD調査やネット調査が一般化しつつある現状について、世論および社会調査側は、これを低回収率にみられる調査環境の悪化の裏返しと捉え、「調査は死んだか？」

(松田氏)と深刻に受け止める。ところが、マーケティングの世界では、「集団に関するデータよりも個別の顧客情報がより重視されるように」なり、集団情報しか取れない質問票による調査ではなく、個人情報入手しやすいネットの利点が明らかになってきているという。「リサーチという手法でなくとも顧客情報が取れる」(萩原氏)のだ。

確かに、かつては、面接調査という、方法上の制約があったからこそ、同じ「調査」という言葉でくくれたのかもしれない。だが、同じ方法であるという縛りがなくなった今となつては、もともとの定義と目的が異なることを前提にすべきだろう。少なくとも、「世論調査および社会調査」と「ネット(インターネット)調査」との間に、明確なネーミング区分を設ける必要があるように思う。

ただ、事はネーミングに帰結するほど単純でもない。当事者間での棲み分けとは別に、調査はやはり、世間に対する責任を免れ得ない。調査の哲学は、世論調査や社会調査の側、とりわけ世論調査に投げかけられている。

当面、次の二つの課題への対応が問われることになるだろう。第一は、調査結果の「補正(ウェイティング)」

の問題である。世間に公表される世論調査結果には、欠測等によるデータのゆがみが付随する。しかし、欠測部分を正確に捕捉することは不可能に近い。「だからこそ、結果の加工は行ない得ないし、手を加えるべきではない」のか、それとも、ゆがみのあることがわかっている以上、「正しくない数値よりも、良さそうな数値を公表すべき」なのか。

RDD調査結果の扱いにかんする新聞・通信各社の姿勢は、目下のところ、補正(加工)派と非補正派とが相半ばする。今後は、「欠測メカニズム」研究の進展とともに、世論調査の品質基準が、科学的な調査から「科学的な補正」(相田氏)へとシフトしていくことは必定のように思う。シミュレーションが現実を超える日も近い。

第二は、新聞・通信社が従来のメーカー側のみならず、ユーザーの側面をもあわせ持つようになったことにともなう問題だ。自社ものの世論調査をテレマーケティング会社にアウトソーシングするのは今や常識であるが、最近では、それにとどまらず、ネット調査会社から提供されたデータを、そのまま世論調査結果として紹介する記事が目立つようになってきた。世論調査については、世

間よりも先ず「社内リテラシー」(松田氏)の養成が喫緊の課題であろう。

いずれにせよ、真の値がわからないものを、それとして公表することに対する恐れ、百歩譲るとしても、(多少の)逡巡は持ち合わせてほしい。

最後に、シンポジウムが開催された5月22日は、奇しくも小泉首相の

二度目の訪朝と重なってしまった。

早いところでは同日から始められた「緊急世論調査」のために、シンポへの参加を見合わせたり、参加はしたものの早めに会社に戻られた方々が数多くいたことも書き添えておきたい。

あとらんだむ

欧州議会選挙、フランス2（第2チャンネル）の予測

欧州議会議員選挙がフランスでは6月13日に行われた。投票は20時に締め切られたが、5分後のフランス2の放送の得票率予想との誤差はごくわずかであった。なお今回からフランスは8選挙区でドント法拘束名簿式となった。

	20時05分放送	結果	誤差
*PS	29.2	28.89	0.3
*PC	5.2	5.25	0.0
*vers	7.3	7.40	-0.1
UMP*	16.5	16.63	-0.1
UDF*	12.4	11.94	0.5
MPF*	8.5	6.67	1.8
RPF*			
FN	10.8	9.81	1.0
他	10.1	13.41	
計	100	100.00	
極左	3.3	3.33	0.0
*左派	42.4	42.88	-0.5
右派*	37.3	37.98	-0.7
極右	10.4	10.13	0.3
他	6.6	5.68	
計	100	100.00	

左派、右派は*印以外もふくむ。

フランス2の「他」は100%から引き算したもの

(重)